

繰り返し行う研修会の質を一定以上のものに保つことが期待できる。

### 3. 「自己主導型学習」の要素によるプログラムの改善点

がん診療連携拠点病院構想が、住む地域に関わらず、質を担保したがん医療を受けられるという均てん化を目的としたものであるため、相談支援センターにおいても、一定以上の質が均てん化されることが求められている。よって、本研究が扱うプログラムも、全体の学習目標の設定を学習者に委ねることは難しく、統一した学習目標を提示することとなった。

しかし、その目標の中にあっても、「私の困りごと・大切にしていること」を出し合い（一日目グループワーク①）、整理し（同グループワーク②）、2日間の学習の成果をもとに振り返る（二日目グループワーク⑨）プロセスを設けることにより、自身が直接抱える課題が学習プロセスに反映できる要素を取り入れることができた。

また、相談支援センターの相談員として注意を払うべき観点は整理しつつも、とりあげる事例について、事例の端緒のみ提示して、自由に事例像をふくらませる課題、グループごとに設定を考える中で観点を整理する形で課題を設定し、自らの臨床経験と、

講義で得た知識、提供された情報素材を組み合わせることでグループごとに独自の達成が得られるような構成を設定できた。

### E. 結論

がん診療連携拠点病院の機能として、新しく設定された「相談支援センター」の役割とそこで行うべき相談業務の質を担保するため、基礎研修3のプログラムの精緻化を行った。これにより、相談支援センターの役割とそこで行う相談支援のスキームを全国で標準化していくための手段を準備することができたと考えられた。

### G. 研究発表

なし

### 2. 学会発表

Chikako Yamaki, Tomoko Takayama,  
Shigehiro Ohmatsu, Yuko Ogo, Fumihiko  
Wakao, Cancer Information & Support  
Centers in Japan ? How are they used?-  
11th World Congress of Psycho-Oncology,  
Vienna, Austria, 2009. June 23-25.  
Psycho-Oncology 18(Supple.2):S241.

### 引用文献

渡邊洋子, 成人教育学の基本原理と提起  
—職業人教育への示唆—. 医学教育. 2007,  
38(3)-151-160.

表1. プログラムおよびファシリテータの役割

(プログラム、詳細、各プログラムの意図、ファシリテータに期待する役割までを見開きで作成)

時間	プログラム(予定)	進行	詳細(具体的に何をするか)
1日目	プログラム		
8:45-9:30 (45分)	ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	場所は研修会場ごとの別途案内を確認のこと
9:30-9:35 (5分)	挨拶	主催者	チーフファシリ・グループファシリ・スタッフ挨拶
	セッション1		<p>【基礎3の学習目標】のうち、セッション1で焦点を当てるのは【1と2】 がん専門相談員の役割、相談支援のプロセス、相談支援の要素、がん相談10の原則に照らし合わせ、相談者が訴える内容に留意した相談支援業務を行うために必要な知識・スキルを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談員の役割を理解する</li> <li>2. 相談支援業務の中で必要なコミュニケーションスキルを学ぶ</li> <li>3. 最初の訴えに加え、最初には訪れなかった困りごと、課題、ニーズを把握するためのアセスメント方法を意識化する</li> <li>4. 疾患や治療の特徴、それらが患者、家族に与える影響を理解し、ニーズに応じた適切な情報提供や支援の方法を学ぶ</li> <li>5. 継続的サポートの必要性に基じた相談支援の見直しをもつために必要な要素を学ぶ</li> <li>6. 必要に応じて、院内、院外の関係者や関係機関との連携をとるための方法を学ぶ</li> </ol>
9:35-10:00 (25分)	オリエンテーション 講義： 「がん専門相談員の役割」 「コミュニケーションスキル」	チーフ ファシリ	<p>題材：講義資料スライド</p> <p>参考： (学習の手引巻P17「がん相談10の原則」P20「1.必要なスキル」 P34-36「1.相談業務のプロセス」「2.コミュニケーション技術」)</p>
10:00-10:15 (15分)	グループワーク1-1： 「私の困りごと・大切にしていること」 作業1： 「きくーきいてもらう体験」	グループ ファシリ	<p>題材：事前課題ワークシート「相談支援の中で困難だと感じる場面」について 目的：アイスブレイキング</p> <p>作業内容： ・2人組みのペアをつくる。(5分以内！) ※グループが奇数人数の時にはオブザーバー(観しければファシリ)がペアを組む。 ・ワークシートに記入したことを参考に、「相談支援の中で困難だと感じる場面」について ・話す側、聞く側を体験する。(1人5分) ・聞く側はコミュニケーションスキルを意識して活用する。 ・話す側は「聞いてもらえたと感じる」「受けとってもらえた感じがする」など自分の心の動きを意識する。</p> <p>時間配分：5分×2人=(10分)</p>
10:15-10:35 (20分)	グループワーク1-2： 「私の困りごと・大切にしていること」 作業2： 「ペアになった人をグループメンバーに紹介する体験」	グループ ファシリ	<p>題材：ペアになった人の困りごとについて</p> <p>作業内容： ・ペアになった人の「困りごと」と「きく技術の良かったところ」を順に紹介する。(1人2分)</p> <p>時間配分：2分×8人=(16分) 予備時間(4分)でペア間のフィードバックをしてもよいし、次に進んでもよい</p>
10:35-11:00 (25分)	グループワーク1-3： 「私の困りごと・大切にしていること」 作業3： 「困りごとの整理」	グループ ファシリ	<p>題材：グループメンバーの「困りごと・大切にしていること」</p> <p>作業内容： ・「困りごと・大切にしていること」の共通点を探す。 ・それぞれの困りごとが個人・組織・地域のレベルのどこに起因するか整理する。 ・個人レベル(相談対応)にテーマを絞り、解決策について話し合う。 ・必要に応じて議論の中で要点を模造紙や付箋を使って書き出す(必須ではない) ・話し合いの結果は全体共有の時に発表する。</p> <p>時間配分：グループディスカッション(20分)</p>
11:00-11:20 (20分)	全体共有： 「私の困りごと・大切にしていること」	チーフ ファシリ	<p>題材：各グループで討論された「困りごと・大切にしていること」</p> <p>作業内容： ・チーフの司会で順に報告 ・模造紙や付箋を使って書き出したものがあれば、見せながら報告する。</p> <p>時間配分：発表3分×6グループ=(18分)</p>
11:20-11:30 (10分)	休憩		

各プログラムの地図	グループファシリテーターに期待する役割	時 間
		1日目
		8:45-9:30 (45分)
	挨拶はコンパクトに、所属・氏名・担当グループのみ。	9:30-9:35 (5分)
		セッション1
<p>オリエンテーションねらい： ・スケジュール、参加上のルールを理解してもらう ・基礎研修(3)の研修目的と到達目標を理解してもらう</p> <p>講師のねらい： ・相談員の役割を理解する ・相談支援業務の中で必要なコミュニケーションスキルを学ぶ</p>	<p>研修中、このルールや講義内容に立ち戻れるように、 ファシリも講義内容を共有する 受講生が理解しながら聞いているかを確認する</p>	9:35-10:00 (25分)
<p>アイスブレイキング ・ロールプレイの要素をもたせることで、 コミュニケーションスキル（聴く・語る）を実感してもらう ・相談員仲間（キピア）に話を聞いてもらい、共感する経験</p>	<p>・グループのあたりまわりを促す第一歩として、 2人ペアで話しやすい雰囲気をつくる（グループの環境作り）。 ・受講生の中でグループに参加しにくい人、 他の人の意見を排除するような人がいた場合には、 さりげなく介入してください。 ・ワークシートの原本を受講生に返却してください。 コピーはファシリ確認用なので、目を通してみてください。</p>	10:00-10:15 (15分)
<p>・話の要点をつかむ、言い換え・要約をするコミュニケーションスキルの実践 ・グループ内でピアサポートの感覚をもつことで、よい雰囲気をつくる</p>	<p>・ファシリメンバー間のアイスブレイキングもかねて、 ファシリがはじめに自己紹介、そのまま司会を担当する。 ・リラックスした、緩かい雰囲気作りが最大の目的。 ・自分の相談員として抱えている問題・課題、悩み、不安などを 話せた感覚、ピアサポートを実感できるような雰囲気づくりを。 ・次の段階で、個人/組織/地域の3段階に整理してあるという課題に 向かえるようにファシリの側では心の準備を。</p>	10:15-10:35 (20分)
<p>・相談員の役割と自己の体験を関連させて考えることにより、 相談員の役割についての理解を深める ・それぞれの困りごとが何に起因しているかを整理し、 相談支援のプロセスの理解によって解決される事柄については、 客観的に理解し、共有する ・相談員としての限界を知り、実現可能なことは何なのか意識する</p>	<p>・引き続きファシリが司会を担当する。 ・困りごと、問題の所在について、それがどこに起因する問題 であるのか、発生場所を明確にできるようにすればOK (相談員だけで解決できない問題、組織の問題など) ・相談対応についてのディスカッションでは、2日間の研修で その人なりの回答に近づけるような導入になれば望ましい</p>	10:35-11:00 (25分)
<p>・他のグループで討論された内容を知ることにより、抜けていた視点を補足する</p>	<p>・ファシリは、グループで討論された内容について、 その討論の中心となっていたグループメンバーに報告するよう促す。 ・発表者がうまく話をつかめていないようであれば、補足を。</p>	11:00-11:20 (20分)
		11:20-11:30 (10分)

時 間	プログラム(予定)	進行	詳 細(具体的に何をするか)
1日目	プログラム		
	セッション2		<p>【基礎3の学習目標】のうち、セッション2で焦点を当てるのは【2,3,4】 がん専門相談員の役割、相談支援のプロセス、相談支援の要素、がん相談10の原則に照らし合わせ、相談者が訴える内容に留意した相談支援業務を行うために必要な知識・スキルを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談員の役割を理解する</li> <li>2. 相談支援業務の中で必要なコミュニケーションスキルを学ぶ</li> <li>3. 最初の訴えに加え、最初には述べられなかった困りごと、課題、ニーズを把握するためのアセスメント方法を標準化する</li> <li>4. 疾患や治療の特徴、それらが患者・家族に与える影響を理解し、ニーズに応じた適切な情報提供や支援の方法を学ぶ</li> <li>5. 継続的サポートの必要性に即じた相談支援の発遣しをもちつために必要な要素を学ぶ</li> <li>6. 必要に応じて、病内・病外の関係者や関係機関との連携をとるための方法を学ぶ</li> </ol>
11:30-11:35 (5分)	講義： 「相談支援のプロセス」	チーフ	<p>題材：講義資料スライド</p> <p>参考： (学習の手引きP34-36「1.相談業務のプロセス」他)</p>
11:35-11:40 (5分)	導入： 「役割決め」 「作業1予告」 「DVD視聴(途中まで)」	チーフ ファシリ	<p>教材：DVD事例1乳がん患者への相談支援</p> <p>作業内容： ・グループでの司会、書記、タイムキーパー、発表者を決める ・DVDを見た後に行う作業1の予告をする ・DVDを途中で見る 相談員：「ああ、そうですか、ご病気はなんでしょうか」 クライアント：「乳がんです」 → ここまで見る</p>
11:40-11:50 (10分)	グループワーク2-1： 「乳がん患者への相談支援」 作業1： 「ウォーミングアップ」	司会役割 メンバー	<p>作業内容： ・相談者の「相談者に質問してみたいこと/得たい情報」を自由に出しあう (DVDを見て思い出したことや何でもよいので発言をする) ・司会は司会役のグループメンバーが担当する、書記はメモをとる。</p> <p>時間配分：グループディスカッション(7分)</p>
11:50-12:00 (10分)	導入： 「作業2予告」 「DVD視聴(最後まで)」	チーフ ファシリ	<p>作業内容： ・DVDを見た後に行う作業2の予告をする ・DVDを最後まで見る</p>
12:00-12:10 (10分)	グループワーク2-2： 「乳がん患者への相談支援」 作業2： 「事実確認」	司会役割 メンバー	<p>作業内容： ・DVDの内容について得られた情報(事実のみ)を確認する。 例) 画面の中の登場人物、話者の中の登場人物、相談者の対人関係、家庭状況、病名、治療状況、使用された資料、相談のテーマなど</p> <p>時間配分：グループディスカッション(8分)</p>
12:10-13:10 (60分)	昼休み ファシリレーターミーティング	チーフ ファシリ	作業進捗・グループメンバーについての情報共有
13:10-13:25 (15分)	講義： 「がんを抱えて暮らす人の理解」	チーフ ファシリ	<p>題材：講義資料スライドとDVD事例1乳がん患者への相談支援</p> <p>参考： 「がんを抱えて暮らす人の理解」講義資料スライド 乳がんの基本的な情報：講義資料 (学習の手引きP28-32「がんの心理社会的側面」)</p>
13:25-13:45 (20分)	グループワーク2-3： 「乳がん患者への相談支援」 作業3： 「3側面からの整理と課題の明確化」	司会役割 メンバー	<p>題材：DVD事例1と「がん専門相談員の役割」から「がんを抱えて暮らす人の理解」までの講義</p> <p>作業内容： ①DVDの内容を身体(からだ)・心理(こころ)・社会(くらし)の3つの側面から整理する ②画面のどのあたりで「課題・問題の明確化」がなされていたか話し合う ※DVDの相談員が行ったコミュニケーション上の工夫やどのような知識(病態に関する、治療に関する、相談支援に関する、患者の社会心理的背景に関する)などを用いて相談員が相談を行っているかなどのことに留意して作業をすすめる</p> <p>時間配分：グループディスカッション(20分)</p>
13:45-13:55 (10分)	グループワーク2-4： 「乳がん患者への相談支援」 作業4： 「グループ間の意見交換」	グループ ファシリ	<p>作業内容： 作業3で話し合わせた内容について、2グループ合同で意見交換をする</p> <p>時間配分：2グループ合同の意見交換(10分)</p>

各プログラムの意図	グループファシリテーターに期待する役割	時 間
		1日目
このセッションをおして身につけてもらいたい要素 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳がんの疾患や治療についての知識</li> <li>乳がん患者の心理社会的支援に関する知識</li> <li>セカンド・オピニオンの相談の特徴と必要な知識</li> <li>院内外の他の専門職との協働・連携</li> </ul>		セッション2
・2日間の中心的な目標である「相談支援のプロセス」について、意識化し、言語化できるための共通理解をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークがこの講義内容に基づいて進められるように、ファシリも講義内容を共有する</li> <li>受講生が理解しながら聞いているかを確認する</li> </ul>	11:30-11:35 (5分)
・最初の振り返に加え、最初には語られなかった困りごと、課題、ニーズを把握するためのアセスメント方法を意識化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割決めをスムーズに（これに時間をとるのはもったいないので）可能であれば、意見を主張しすぎる人が機会にならないようになどコントロール</li> </ul>	11:35-11:40 (5分)
作業を行うためのウォーミングアップの意味合いがあります。 DVDをみて振り返ったことを向でいいので発言をする。 ・グループ全員が複数回発言する機会をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>この課題は、ワークを行うためのウォーミングアップの意味合いもあるので、安心して発言できる雰囲気をつくる</li> <li>グループ全員が複数回発言する機会をもつことができるようにコントロール</li> <li>このグループワークに必要なキーワードやテーマが言葉として挙がってくるとよい</li> <li>セカンドオピニオン、ファーストオピニオンの用語の確認もできるとよい</li> </ul>	11:40-11:50 (10分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>逐語録があるのでメモをとるよりDVDに集中することを促す</li> </ul>	11:50-12:00 (10分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>的確なアセスメントをするための情報（事実）収集</li> <li>事実に基づき、一定の枠組みの中でアセスメントする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セカンドオピニオンの基礎知識は事前学習として利用（学習の手引巻P57-59「セカンドオピニオン」）</li> <li>事実確認する方法に困ったら、「時間軸」に沿って課題を進める</li> <li>逐語録を上手に活用</li> <li>「事実」から離れない、解釈を発言する課題ではない。</li> <li>身体・心理・社会などの枠組みの講義前であるが、午後につなげられるようファシリは意識しておく</li> <li>SOの留意点やコミュニケーションスキルが盛り込んでいるかについて確認し、必要に応じて介入する</li> </ul>	12:00-12:10 (10分)
		12:10-13:10 (60分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>全人的に理解し、アセスメントするために、「身体・心理・社会」という観点から見る見方、がんの疾患や治療の特徴、それが身体、心理、社会に与える影響、その時間的経過の枠組みを学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークがこの講義内容に基づいて進められるように、ファシリも講義内容を共有する</li> <li>受講生が理解しながら聞いているかを確認する</li> </ul>	13:10-13:25 (15分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>DVDで得られた情報を事実と可能性（想像）を区別しながら全体像（身体、心理、社会）として、課題を明確化する。</li> <li>知識を得ることにより「語らなければならぬ事実」が見えてくること体験</li> <li>知識を用いて、言語化されていない部分、不明な部分の予測を立てる</li> <li>身体・心理・社会の枠組みでアセスメントする</li> <li>時間軸の中で、今対応すべきこと、継続的に対応すべき事などを峻別する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援のポイントをグループ内であげられ、共有できればOKです</li> <li>このワークでは連携に関しては軽く触れられればOKです</li> </ul>	13:25-13:45 (20分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合った内容の言語化と他のグループで討論された内容を知ることにより、揃っていた視点を補足して作業5へつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会はA・B・Eグループのファシリが担当する</li> <li>C・D・Fグループのファシリは必要に応じてフォローする</li> <li>グループで話し合った内容がうまく言語化されるように促して下さい</li> <li>必要に応じて「〇〇についても話していただよね」など方向付けを</li> </ul>	13:45-13:55 (10分)

時間	プログラム(予定)	進行	詳細(具体的に何をするか)
1日目	プログラム		
13:55-14:35 (40分)	グループワーク2-5: 「乳がん患者への相談支援」 作業5: 「課題から相談支援・情報提供へ」	司会役割 メンバー	作業内容: ・明確化された課題・問題の中からグループで特に取り上げたい課題を決める。 ・取り上げた課題について、相談者のニーズに応じた相談支援を行うために必要と考えられる相談員の具体的な「言葉かけ」、配慮、動員する知識などについて出しあい、整理する。 ・以下の点について発表できるように整理する 「その課題を特に取り上げたいと考えた理由(アセスメント)」 「どのような言葉を用いるか(具体的な言い方)」 「その言葉によって明確にしたいこと(その言葉を用いる理由)」 時間配分: グループディスカッションと発表の準備(40分)
14:35-14:50 (15分)	休憩 ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	イス移動 グループで話し合われていた良いポイント、足りないポイントを確認・共有
14:50-15:20 (30分)	全体共有: 「乳がん患者への相談支援」	チーフ ファシリ	作業内容: ・作業5でまとめた内容について発表する 時間配分: 発表2分×6グループ(12分)+フロアとチーフファシリとの対話形式のやりとり
15:20-15:40 (20分)	グループワーク2-6: 「乳がん患者への相談支援」 「セッション2の振り返り」	グループ ファシリ	作業内容: ・他のグループ発表を聞いて、補足、強固したいことなどグループ内でディスカッション ・事例1の解説資料が配布されるので、適宜参考にする 時間配分: グループディスカッション(20分)
15:40-15:50 (10分)	休憩 ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	セッション2の振り返りの様子を受けての情報共有
セッション3			【基礎3の学習目標】のうち、セッション2で焦点を当てるのは【1~6】 がん専門相談員の役割、相談支援のプロセス、相談支援の要素、がん相談10の原則に照らし合わせ、相談者が伝える内容に留意した相談支援業務を行うために必要な知識・スキルを学ぶ  1. 相談員の役割を理解する 2. 相談支援業務の中で必要なコミュニケーションスキルを学ぶ 3. 最初の訴えに加え、最初には語られなかった困りごと、課題、ニーズを把握するためのアセスメント方法を標準化する 4. 疾患や治療の特徴、それらが患者・家族に与える影響を理解し、ニーズに応じた適切な情報提供や支援の方法を学ぶ 5. 継続的サポートの必要性に応じた相談支援の見直しをもつために必要な要素を学ぶ 6. 必要に応じて、院内・院外の関係者や関係機関との連携をとるための方法を学ぶ
15:50-16:30 (40分)	講義: 「家族ががんになったとき」 「他の専門職や他機関等との連携・協働」 「患者団体等による当事者活動とは」	チーフ ファシリ	題材: 講義資料スライドと事例2節がん患者家族への相談支援 参考: 「家族ががんになったとき」(がん対策情報センター発行の冊子) 「他の専門職や他機関等との連携・協働」(学路の手引きよりエッセンスを抽出) 「患者団体等による当事者活動とは」(平成21年度基礎研修(3)2日目の講義部分よりエッセンスを抽出)
16:30-17:00 (30分)	導入: 「2日目について」	チーフ ファシリ	アナウンス内容: ・2日目はグループが変わること ・「うそつき自己紹介」のための最近の心温まる話(ポイントとワソtotal: 2分)を考えてくること ・1日目アンケート記入のお願ひ
17:00-18:00 (60分)	ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	1日目の総括・改善点の指摘と2日目打ち合わせ

各プログラムの意図	グループファシリテーターに期待する役割	時 間
		1日目
<ul style="list-style-type: none"> <li>事例1の全体像のアセスメントから導き出される課題を明確化し記述（言語化）する</li> <li>課題を明確にした後、相談支援の介入（行動）に具体化するプロセスを学ぶ</li> <li>アセスメントの結果、明確にされた課題から、具体的な相談支援（行動）に結びつけるプロセスを実感するものです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業3で挙げられたポイントを、言葉かけなどの行動にどのように反映させればよいか、またその言葉や行動を意図について話し合ってください。</li> </ul>	13:55-14:35 (40分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合われていた良いポイント、足りないポイントを確認・共有</li> </ul>	14:35-14:50 (15分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループで討議された内容を知ることにより、抜けていた視点を補足し相談支援のポイントを全体で共有する</li> <li>チームによる意図の解説で、気づきを意識しやすくして、次のグループことの振り返りにつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他グループで指摘してほしいと挙げられているポイントを中心に質問する。</li> <li>良いポイントと思われる点はどんどんポジティブフィードバックを。</li> </ul>	14:50-15:20 (30分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークで達成できたことや感想がグループで共有される</li> <li>他のグループの発表を聞いての感想がグループで共有される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会はファシリが担当する</li> <li>グループで達成できたことの確認、ねぎらい、不完全燃焼部分（やメンバーがいないか）の確認</li> <li>→不完全燃焼部分が強くある場合には、運営サイドにあげてください</li> </ul>	15:20-15:40 (20分)
		15:40-15:50 (10分)
<p>このセッションをとおして身につけてもらいたい要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん患者の疾患や治療についての知識</li> <li>・ がん患者へ心理社会的支援に関わる知識</li> <li>・ 患者家族の特性とその理解のために必要な知識</li> <li>・ 当事者団体の活動の機能や形態</li> <li>・ 院内外の他の専門職との協働・連携</li> </ul>		セッション3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全人的に（身体・心理・社会的側面などから）対象をとらえるための具体的な知識（要素）を提示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翌日のグループワークがこの講義内容に基づいて進められるように、ファシリも講義内容を共有する</li> </ul>	15:50-16:30 (40分)
添削：翌日の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループのメモをコピーしたいなどの要望があれば、事務局に伝えて下さい</li> </ul>	16:30-17:00 (30分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営上、やりにくさを感じた点、改善すべき点を教えてください</li> <li>・ 明日に向けて配慮が必要と思われる人と、今後のファシリ候補となり得る人を教えてください</li> </ul>	17:00-17:30 (30分)

時 間	プログラム (予定)	進 行	詳 細 (具体的に何をやるか)
2日目	プログラム		
9:00-9:30 (30分)	ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	
9:30-10:00 (30分)	グループワーク3-0: 「うそつき自己紹介」	グループ ファシリ	題材: 最近の心温まる話 (ホントとワソ) 目的: アイスブレイキング 時間配分: 3分×8人=(24分) 予備時間(6分)
10:00-10:15 (15分)	講義: 「相談支援のプロセスとがんを抱えて暮らす人の理解 - 復習-」	チーフ ファシリ	題材: 「がんを抱えて暮らす人の理解」「家族ががんになったとき」のぬさらいと 事例2の留意点・肺がんの基本的な知識の確認 講義資料スライド 講義資料 参考: 「がんを抱えて暮らす人の理解」(学醫の手引きP28-32「がんの心理社会的側面」) 「家族ががんになったとき」(がん対策情報センター発行の冊子)
10:15-10:30 (15分)	導入: 「役割決め」 「作業予告」 「DVD視聴 (途中まで)」	チーフ ファシリ	教材: 事例2肺がん患者家族への相談支援 作業内容: ・グループ内で役割分担を決める ・セッション3の全体的な流れを説明する(作業の内容や順番、全体共有の方法など) ・効果的なグループワークの進め方について説明する ・DVDを途中まで見る クライアント: 「どうしてこんなにならざるにしまったのかと思って」 → ここまでを見る
10:30-10:40 (10分)	グループワーク3-1: 「肺がん患者家族への相談支援」 作業1: 「3側面からの事実確認」	司会役割 メンバー	作業内容: ・DVDの相談者が語っている事実を3側面(身体・心理・社会)から整理する。 時間配分: グループディスカッション (8分)
10:40-10:50 (10分)	グループワーク3-2: 「肺がん患者家族への相談支援」 作業2: 「さらなる情報収集と知識の活用」	司会役割 メンバー	作業内容: ・相談員として、さらに把握したい事柄について話し合う。 ・「さらに把握したい」と思ったのは、どのような課題を予測していたからなのか、 その理由も併せて話し合う。 ・講義で得た知識を活用する。 時間配分: グループディスカッション (8分)
10:50-11:10 (20分)	グループワーク3-3: 「肺がん患者家族への相談支援」 作業3: 「課題の明確化」	司会役割 メンバー	作業内容: ・作業1,2で検討した内容をもちに、面接の中でアセスメントすべき項目、課題・問題を列挙する(複数) ・列挙した課題・問題の中から、グループで重点的に取り組む課題・問題を選択する(1つ) ・「なぜ」その課題が重要だと考えたのか、理由を話し合う。 時間配分: グループディスカッション (20分)
11:10-11:20 (10分)	交換留学	チーフ ファシリ	・留学生(世話人)が、一斉に5分間、別のグループ(行き先はチーフが指示)に行き、 行った先で話し合わせた内容を聞く ・一斉に戻った後、行った先の情報をグループ内で共有する。 他のグループとの共通点、差異を話し合いながら、自分たちのグループの話し合いの要点を定める 時間配分: 留学5分+報告5分
11:20-12:10 (30分)	グループワーク3-4: 「肺がん患者家族への相談支援」 作業4: 「目標設定と介入の方向性・方法の検討」	司会役割 メンバー	作業内容: ・課題の絞り込みとその課題に絞込んだ理由の検討。(作業3で到達していない場合) ・課題解決に向けての目標を設定する。 ・目標を達成するための介入(具体的にどのような支援をおこなうか)について話し合う。 ・相談の収束のさせ方(今後の方向性)について話し合う。 一課題・目標・介入・経緯など骨組みがある程度固まったら、シナリオ作成に移行する。 ※13:00の作業5を待つ必要はありません。 時間配分: グループディスカッション (30分)
12:10-13:00 (50分)	昼休み・休憩 ファシリテーターミーティング	各グループ	各グループで適宜昼休み・休憩時間をとる 作業進捗・グループメンバーについての情報共有



各プログラムの題名	グループファシリテーターに期待する役割	時 間
		2日目
		9:00-9:30 (30分)
・アイスブレイキング ・話しやすい雰囲気づくり、グループの温まり	・ファシリタートメンバー間のアイスブレイキングもかねて、ファシリタートはじめにうそつき自己紹介、そのまま司会を担当する。 ・グループのあたたまりを促し、話しやすい雰囲気をつくること ・受講生の中でグループに参加しにくい人、他の人の意見を排除するよう人がいた場合には、さりげなく介入してください	9:30-10:00 (30分)
・知識がグループワークに生かされるように、前日の学習内容を振り返る	・グループワークがこの講義内容に基づいて進められるように、ファシリタート講義内容を共有する	10:00-10:15 (15分)
	・役割決めをスムーズに（これに時間をとられるのはもったいない） ・可能であれば、意見を主張しすぎることがないようになどコントロール	10:15-10:30 (15分)
・課題を明確にするために、まず相談者の全体像をとらえる	・このグループワークに必要なキーワードやテーマが言葉として繋がってくるよ ・マトリックスに整理されている「視点・具体例」の情報ができるだけ挙げられることが望ましい。 ・必要に応じて「～はどうだったですか」など話題を向ける	10:30-10:40 (10分)
	・DVDで触れられなかった内容については、グループで自由に状況を設定することができます。 ・特に、状況への疑問 （例→「なぜ2ヶ月も治療せずに放置していたのか？」など）を話し合うことに時間を費やして討論が進んでいない場合は、グループで状況を設定するように促してください。 ・状況を設定する場合は、なぜそのように設定するのか、理由も併せて話し合うように促してください。	10:40-10:50 (10分)
・事例2：肺がん家族への相談支援のポイントとなる内容が、グループ内で共有でき、意識、言語化できることをめざしています ・この部分は前日のプロセスの温め体となる。 ・今明らか事実、そうでないことを切り分けながらアセスメントし、審議するべき問題を明らかにする	・同上 （背景設定は自由にしてよいが、それがそれぞれにアセスメントのポイントとしてつながるよう意識付けをしてください） ・課題を選ぶにあたっては、なぜそれを選んだかを説明できるように ・特に身体面については、肺がん資料の活用を促してください ・「さらなる留意点」スライドも参考に議論を進めてください	10:50-11:10 (20分)
・ホストグループが自分たちの話し合いの内容を言語化することを促す ・留学生が持ち帰った別のグループの視点を共有することでグループの話し合いの幅を広げる	・グループで話し合った内容がうまく言語化されるよう促して下さい。 必要に応じて「〇〇についても話していましたよね」と方向付けを。	11:10-11:20 (10分)
・通常は順時に行っている相談のプロセスが必要となる事項を一つずつ言語化しながら確認することで、自分の相談を見直さきっかけになる	相談支援のポイントとしては、以下のようなものが考えられます。 1. 相談者（患者の妻）の最初の訴え（患者の情報を提供してもらいたい）が生じたきっかけに目をむける。 2. 相談者から得られる情報を整理し、問題や課題を明確にする。 3. 身体的、心理社会的側面から問題点や課題を整理する。 4. 問題や課題を相談者と共有し、次に必要なアクションを共に考える。 5. 肺がんの患者会に関する正確な情報提供をし、理解の促進をはかる。 6. 他の専門職への依頼や連携を考えつつ相談支援を行う。 7. 患者のがんの病態や病期の知識を活用する。（肺がん資料活用！） 8. 患者と妻それぞれの家庭内での役割の変化に注目して話をさく。 9. 患者の妻も、患者等同様ストレスを抱え、支援を必要としている対象者であることを認識して支援を提供する。 10. 家族はひとつのまとまりであることを理解し、患者と家族の状況が互いにどのように影響を与えているかを理解するなどです。	11:20-12:10 (30分)
	全体共有前の体験までに、以下の2点を付箋に書いておいてください ・「グループで話し合えていたがシナリオに盛り込めなかったこと」 ・「グループで話し合えていないこと」	12:10-13:00 (50分)

時 間	プログラム(予定)	進行	詳 細(具体的に何をするか)
2日目	プログラム		
13:00-14:00 (60分)	グループワーク3-5: 「肺がん患者家族への相談支援」 作業5 「シナリオ作り」	司会役割 メンバー	作業内容: ・引き続き、シナリオを作る。 ・5分間の対話になるようにする。 ・グループで選んだ課題が反映されるようにする。 ・「シナリオの説明」スライドを参考に発表の準備をする。 ・一度シナリオができた後に演じる役の人が練習し、さらにシナリオを改良するなどできればなおよい。 ・コピーできるのでシナリオは1部作成すればよい。 ※コピー受付は → 14:00まで!! ※「13:00からシナリオ作りをする」というよりは、 「13:00にはシナリオ作りに取り掛かかっていないと全体共有に間に合わない」という印象です。
14:00-14:10 (10分)	休憩		イス移動
14:10-15:40 (90分)	全体共有: 「肺がん患者家族への相談支援」 ※途中休憩10分	チーフ ファシリ	・時間配分: シナリオのポイント説明(2分)+シナリオ演技(5分)+質疑応答(5分)×6グループ=(72分) ・作業途中のグループがあったとしても、必ずこの時間に開始する ・シナリオ実演中「相談支援のプロセスの全体像(図)」スライドを表示しておく ・シナリオ実演終了時点で残り時間ある場合は、タイムキーパーが残り時間を報告する ・質疑応答中、質問に関連するスライドを表示する ・質疑応答では、特定の人だけが回答することのないよう注意する ・また、個人の主観ではなく、グループ内で話し合われた内容を回答してもらうようにする
15:40-15:55 (15分)	グループワーク3-6: 「肺がん患者家族への相談支援」 「セッション3の振り返り」	グループ ファシリ	作業内容: ・他のグループ発表を聞いて、補足、強調したいことなどグループ内でディスカッション ・グループワークの肩の荷下ろしをする ・事例2の解説資料が配布されるので、適宜参考にする 時間配分:グループディスカッション(15分)
15:55-16:10 (15分)	休憩		
	セッション4		基礎研修3の学習内容を振り返り、日々の相談支援業務に役立てられる内容について確認する
16:10-16:15 (5分)	導入: 「セッション4について」	チーフ ファシリ	クロージングセッションの導入
16:15-16:30 (15分)	グループワーク4: 「研修全体の振り返り」	グループ ファシリ	作業内容: ・研修2日間を通しての振り返り ・相談員の役割についての認識の変化 ・グループで困りごとのいくつかを共有し、どんな工夫ができるか話し合う 時間配分:グループディスカッション(15分)
16:30-17:00 (30分)	挨拶 受講証書交付 2日目アンケート記入	主催者	アナウンス内容: ・会場協力施設担当者へのお礼 ・事務局の者が受講証書を各グループに持っていくこと ・2日目アンケート記入のお願い ・アンケート・名札は出口付近で回収すること ・時間が終了後は会場の原状復帰にご協力いただければ
17:00-18:00 (60分)	ファシリテーターミーティング	チーフ ファシリ	2日間の総括・改善点の指摘と今後に向けて

各プログラムの意図	グループファシリテーターに期待する役割	時間
		2日目
・挙げられたポイントが在いかに行動レベルに移すかを意識化する過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオの出来、不出来より、話し合えたかどうかが大切なので、話し合われたがシナリオから落ちたポイント、無意識にシナリオに組み込まれた内容などが全体共有の質問として挙げられるよう整理しながら見守り、誘導して下さい</li> <li>・シナリオを改良する場合は、模擬演習だけで改良するのではなく、グループ全体で検討させてください</li> </ul>	13:00-14:00 (60分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の点をファシリター間で共有、各グループへの質問者を決める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「グループで話し合えていたがシナリオに盛り込めなかったこと」</li> <li>・「グループで話し合えていないこと」</li> <li>・「不十分な話し合いのままシナリオや発表に盛り込まれたこと」</li> </ul> </li> </ul>	14:00-14:10 (10分)
各グループの発表を全体で共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の学びが増えるように、ポジティブな点も取って言語化してフィードバックしてください</li> <li>・話し合えなかった点を気づかせる質問を、ただし、ポジティブフィードバックとセットでお観いします</li> </ul>	14:10-15:40 (90分)
① ロールプレイの感想がグループで共有される ② 全体発表をきいての感想がグループで共有される	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会はファシリターが担当する</li> <li>・全体発表後のグループワークの席の荷おろしをします</li> <li>・グループで達成できたことの確認、ねぎらい、不完全燃焼部分(やメンバーがいらないか)の確認をする。</li> <li>・不完全燃焼部分が強くある場合には、運営サイドにあげてください</li> </ul>	15:40-15:55 (15分)
		15:55-16:10 (15分)
2日間で学習したことを、日々の相談業務に役立てられるか ・相談支援業務を行う中で発生する困りごとに対して解決のヒントや手がかりは得られたか ・ピアサポートの存在(がん専門相談員として働く仲間たち)を実感できたか、今後の相談先(資源)の一つとして実感できたか		セッション4
		16:10-16:15 (5分)
相談支援のプロセスを学ぶことで、個人レベル(具体的な相談対応)については解決方法の示唆が得られること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合った相談員として抱えている問題・課題、悩み、不安などの軽減になることがあったか、自分なりの解決につながったか、明日からの活かにつながることはあったか、グループ内、グループ間でディスカッションできることをめざしています</li> <li>・全員が2日間の感想など、必ず話せるようにする</li> </ul>	16:15-16:30 (15分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講証書を事務局の者が各グループへ持っていくので、グループメンバーに受講証書を渡してください</li> </ul>	16:30-17:00 (30分)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営上、やりにくさを感じた点・改善すべき点を教えてください</li> <li>・今後のファシリター候補となり得る人を教えてください</li> </ul>	17:00-18:00 (60分)

(資料6)

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業)  
相談支援センターの機能の強化・充実と地域における  
相談支援センターのあり方に関する研究  
(研究代表者：高山 智子)

分担研究報告書

相談支援ツールの開発と評価および相談員の継続教育方法の検討

研究分担者 菊内 由貴 四国がんセンター 副看護師長

研究要旨：地域の医療機能情報データベースの内容拡充と地域における緩和ケア・相談支援における質向上のための取り組みに対する考察を行った。

A. 研究目的

本研究では、相談支援ツールの開発と評価および相談員の継続教育方法について検討する。

B. 研究方法

22 年度は、以下 4 点について行った。

1. 地域の医療機能情報データベースの内容拡充に向けた取り組み
2. 相談員現況調査
3. 愛媛県がん診療連携協議会における相談支援グループ立ち上げと質向上における取り組み
4. 愛媛県がん診療連携協議会における緩和ケアグループの立ち上げと質向上への取り組み

C. 研究結果

【方法 1】すでに愛媛県によって作成された医療機能データベース(えひめ医療情報ネット)に、緩和ケアに関する PEACE プログラムの受講者情報を追加することについて愛媛県がん診療連携協議会にて協議を

行った。データベースへの追加については、愛媛県の予算計上の段取りに時間を要することがあり、ひとまず愛媛県がん診療拠点病院である四国がんセンターのホームページ上に、地域別に名簿を整理し情報公開を行った。

【方法 2】地域における相談員の研修のあり方を検討するにあたり、相談員相談員の基礎研修受講状況や現在の配属部署などの現況調査を実施した。また調査の内容については、相談員同士の連携を促進させるために、専門分野など相談員としての特徴などについても盛り込んだ。

【方法 3】愛媛県がん診療連携協議会の緩和ケア・相談支援分科会の下部組織として相談支援グループを立ち上げ、21 年度に相談員研修プログラム検討委員会および内容検討班において再構築された相談員基礎研修 3 のプログラム内容を踏まえ、今後地域において継続可能なプログラムの検討について協議を行う予定とした。その準備段階として、相談支援グループにおけるリーダーおよびサブリーダーを決定し、年度計画

を可視化しメンバーで共有できるよう具体的な文書として作成した。

【方法4】愛媛県がん診療連携協議会の緩和ケア・相談支援分科会の下部組織として緩和ケアグループを立ち上げ、がん診療連携拠点病院の緩和ケア担当者を中心としながら、地域の緩和ケア病棟を有する病院の現場担当者を含めた事例検討会などの立ち上げについて協議した。緩和ケアグループについても、リーダーおよびサブリーダーを決定し、年度計画を文書化した。また、相談支援と緩和ケアという概念は常に表裏一体として理解されるべきとの考えから、計画策定については2つのグループのリーダーおよびサブリーダーの4名の協働で行った。

#### D. 考察

【考察1】地域の医療機能情報が検索機能のあるデータベースに整理されることは、相談支援センターが地域住民の相談に活用するにあたって非常に有効である。また、がん対策基本計画にあるようながん患者・家族の療養生活の質向上にはがんになった時点から緩和ケアの視点をもつことが重要となる。その上で、地域において緩和ケアについて知識やスキルを持った医療者の情報を把握できるシステムづくりの第一歩として、PEACEプログラム受講者情報は重要であり、それがデータベースに盛り込まれることは活用可能性が高いと考える。将来的には、単にPEACEプログラムを受講したという情報レベルではなく、具体的な緩和ケアにおける診療機能の現状についての情報公開が必要であると考え。

【考察2】がん対策情報センターが実施する相談員基礎研修を受けた相談員を配置することは拠点病院の相談支援体制の要件で

もある。しかしながら、相談員の配置異動などがあり、県内の相談員の現況は変化する。相談員の継続教育という課題に取り組むためにも常に相談員自身の学習のレジネスを把握することは重要であり、また相談員同士が顔の見えるつながりをもつことで、地域情報共有の充実にもつながると考えられる。

【考察3】これまで愛媛県がん診療連携協議会の中では、緩和ケア・相談支援をひとつのまとまりとした分科会としていた。これは相談支援においては緩和ケアの知識やスキルが必要不可欠であることや、緩和ケアを受けている人々には相談支援が必要不可欠であるため一体化して捉える必要があると考えたためである。しかしながら人員配置の現状や声からは、緩和ケアと相談支援のどちらかにしか自分が関与しないと感じている者もいることや、現場としては相談支援、緩和ケアについて個別に検討したい案件があるということを踏まえる必要があった。その結果、緩和ケアと相談支援は切り離せないという概念から安易に分科会組織を分離させず下部組織としてのグループを立ち上げることを方針とした。そこで相談支援グループについては、全国で行われている基礎研修3以降の地域における継続教育のあり方について、まずは事例検討をしながら検討していくこととなる。

【考察4】緩和ケアグループについては、まず拠点病院における緩和ケアの知識およびスキルの向上を目的に、各施設が持ちまわりでの事例検討会を実施する。この検討会の前提としては、担当した医療者擁護にとどまることなく、忌憚ない意見でのディスカッションによって質を高めることであることを明確化する必要がある。なぜなら、現状として同じ施設内ではポジションパワ

一等が影響し、なかなか率直に意見できなかつたり、意見が通らなかつたりということが起こるが、外部からの意見は受け入れやすかつたりということが予測されるため、地域全体での緩和ケア質向上のためには、多施設共同の勉強会が有効であると考え。

#### 【昨年度までの研究成果】

1. 地域の医療福祉資源情報のデータベース構築：愛媛県医療機能情報データベース（えひめ医療情報ネット）、愛媛県看護協会のデータベース、愛媛県指定情報公開センターデータベース（ケアマネジャー情報）
2. 四国がんセンターにおける 19 年度 20 年度の相談対応入力データの分析の結果、同施設における相談内容はある一定の分布傾向を示した。
3. 相談員基礎研修 3 の再検討し新たなプログラムが作成された。

#### E. 結論

22 年度において、1. 地域の医療機能情報データベースの内容拡充に向けた取り組み、2. 相談員現況調査、3. 愛媛県がん診療連携協議会における相談支援グループ立ち上げと質向上における取り組み、4. 愛媛県がん診療連携協議会における緩和ケアグループの立ち上げと質向上への取り組み、以上 4 点について検討した。

昨年度までは、データベース構築や全国レベルの教育内容の検討であったが、今年度の取り組みは地域レベルでのしくみづくりであった。この地域での取り組みが稼働してこそ、地域でのがん医療の質向上へ寄与することができるものになるであろうと期待される。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 菊内由貴 【病棟で退院支援を行える人材はこう育てる!】 退院調整連携パスの活用と退院支援定着への取り組み(解説/特集)地域連携入退院支援 3 巻 2 号 Page29-35 2010

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 特になし

## (資料7)

平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業)  
相談支援センターの機能の強化・充実と地域における  
相談支援センターのあり方に関する研究  
(研究代表者：高山 智子)

### 分担研究報告書

地域の福祉資源情報および施設のがん相談対応データの相談員継続教育への活用の検討  
研究分担者 菊内由貴 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター がん相談支援係長

研究要旨：1. 四国がんセンターの相談支援・情報センターの相談対応データの分析 (H18 年度からの経年調査報告)、2. 地域医療連携パスの運用を可能とするための相談支援センターのあり方に関する考察を行った。

#### A. 研究目的

本研究では、相談支援ツールの開発と評価および相談員の継続教育方法について検討する。

#### B. 研究方法

21 年度は、以下の 3 点について行った。

1. 地域の医療福祉資源情報のデータベースの検討
2. 四国がんセンターのがん相談支援・情報センターの相談対応入力データの分析 (20 年度と 21 年度の分析比較)
3. 相談員基礎研修 3 のプログラム再検討をふまえた相談員の継続教育方法の検討

#### C. 研究結果

【方法 1】四国がんセンターのがん相談支援・情報センター (以下、「相談支援センター」) は 18 年度に新規開設され、21 年度で

4 年目を迎えている。相談対応および地域への調整を図るためには地域医療福祉資源情報データベースの活用が必須であることが、これまでの業務実態から明らかになっている。相談支援センターが活用すべきデータには公的レベルのデータと現場レベルのデータという 2 種類に分類されると考える。公的レベルのデータについては、都道府県単位で収集された医療機能に関するデータベースが、各都道府県 HP 等からの閲覧環境が整いつつある状況である。このデータベースが地域医療者にとってより有用なものになるために、その項目の過不足や精度等について適宜評価し、都道府県と連携を図りながら質の向上を促進することが、相談支援センター機能として重要であると考ええる。一方、現場レベルのデータとは、医療機関のがん医療に対する態度や実際の対応がよかったかどうかなどの患者・家族からの声や現場医療者の主

観的評価などのことであり、実際の患者支援や調整においては、これこそが非常に重要である。実際にはがん専門病院のようにがん患者の相談支援件数事態が多ければ現場レベルのデータは多く蓄積できるが、がん診療連携拠点病院であっても、相談件数にはばらつきがあり、現場レベルのデータ蓄積が困難な状況が考えられる。しかし地域でのがん医療の質の均てん化をはかる上では、これらの情報が地域全体で活用される体制の構築が必要であるといえる。具体的方法として、都道府県単位の相談支援センターで報告会などを設立するなどして、お互いの蓄積データに関する情報交換を行ったり、日々の業務の中でもA拠点病院周辺の地域情報については、A拠点病院の相談支援センターに情報確認する等のように、日常的な相互補完関係を構築することが有用であると考え。

【方法2】四国がんセンターでは、相談支援センターの受けた相談内容に関して、がん対策情報センター等が現況調査などの目的でデータ提出を求めるとした項目を網羅する形で、エクセルを基盤とした相談対応入力データベースを構築している（19年度）。このデータベースで収集された内容を19年度（19年4月～20年3月）、20年度（21年4月～22年3月）21年度（21年4月～22年2月）について比較検討した（19年度は総計のみ）。結果、20年度および21年度の相談件数は、19年度と比較して約2倍に増加した。20年度および21年度の相談内容の項目を分類したところ、対応方法、相談者の分類、

がんの状況、受診歴などについて、ほぼ同様の分布であった。

【方法3】相談員基礎研修3は、20年度より開始されている。相談員として現場に配属されている職種は看護師、医療ソーシャルワーカー、心理士、事務員等様々である。このような現状の中での、がん専門相談員としての基礎能力とは何かについて明確化する必要がある。基礎能力が明らかにされた上で、そこに到達するまでの各職種の異なる課題が明らかになる可能性がある。また単に職種の特性を排除した相談員のあり方を考えるのではなく、職種の特性を理解した上で協働する能力を身につける必要があると考えられる。これらをふまえた上で基礎研修を構造化していく必要があると考える。また、相談員が遭遇する問題には、相談員、組織、地域という3つの局面が考えられ、それぞれへの対応能力を身につける必要があると考える。これらの能力について基礎教育で概念的枠組みを学んだ上で、現場の実践レベルに活用できるようになるための取り組みが、継続教育の目標になるだろうと考える。またその際に、相談対応データベースに記述される具体的な内容分析をすることにより、現場に必要な相談員の能力や対応の振り返りを教育するための貴重なツールになる可能性がある。

#### D. 考察

【考察1】地域医療福祉資源情報データベースは、都道府県が収集した医療機能データを



活用しながら、地域医療者にとってより活用可能なものにすることが相談支援センターに必要な機能であると考えます。また、現場レベルのデータベースを各拠点病院が共有することにより、地域全体の相談対応の質の向上につながると考えられます。

また、医療機関以外にもがん患者のサポート資源として訪問看護やケアマネジャーに関するデータの整備についても行う必要がある。

【考察2】現在、四国がんセンターが利用している相談対応入力データベースの分析では、年度ごとの傾向の比較が可能であり、施設ごとの相談対応の傾向などについて分析するのに有用であると考えます。今後は、都道府県の拠点病院がデータ分析をとりまとめて分析するなどのような体制のあり方についても検討する必要があります。分析により明確にされる問題については、相談員、組織、地域という3つの局面において検討される可能性がある。またこのような検討自体が、相談員の継続教育の貴重な機会となると考えます。

【考察3】継続教育の目標は、基礎能力の到達目標レベルの維持および向上であるため、この議論には基礎研修の到達目標が何か(相談員のあるべき姿)について整理する必要があります。バージョンアップレベルを中央あるいは地方にもっていくかの検討が必要ですが、相談員を対象にフォローアップのニーズについて調査することも有用の可能性があると見据え、

各地域の指導者の育成が重要な課題であると考えます。

## E. 結論

21年度において、1. 地域の医療福祉資源情報のデータベースの検討、2. 四国がんセンターのがん相談支援・情報センターの相談対応データベースの分析、3. 相談員基礎研修3のプログラム検討を踏まえた相談員の継続教育方法の検討の以上、3点について検討した。2つのデータベースについては、現場業務上有用であることが明らかとなった。これらのデータベースのさらなる活用のための課題が示唆された。データベースの活用のひとつの視点として、相談員の継続研修のための貴重な資料となることが示唆された。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1) 船田千秋, 菊内由貴, 重岡清香, 松本裕美子 がん相談支援部門での相談対応情報のデータ化と実際 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 5巻 292-295 2009

2) 松本裕美子, 菊内由貴, 船田千秋, 重岡清香 退院調整体制強化のための病棟看護師へのアプローチ 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 5巻

42-45 2009

3) 菊内由貴 チーム医療における看護師の役割 医療 63 (8) 498-500 2009

4) 田所かおり, 神谷淳子, 中岡初枝, 芝美栄, 菊内由貴, 船田千秋 【退院調整と地域連携に生かすクリニカルパスと看護記録】退院調整連携パスを利用した退院支援事例 麻薬内服を拒否しながら強く退院を望んだ末期がん患者への支援 看護きろくと看護過程 19 (1) 51-63 2009

5) 菊内由貴 在宅移行のためのマネジメント】事例でみる在宅移行と地域連携 地域との連携がうまくいった事例・いかなかった事例 緩和ケア 19(2) 141-142

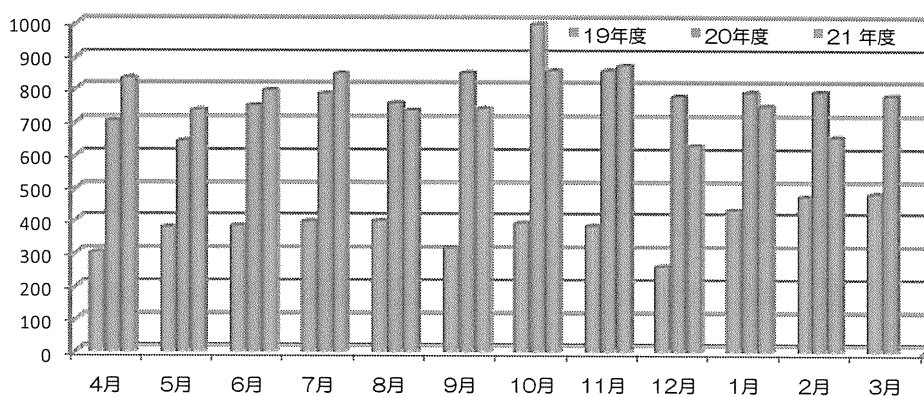
6) 松久哲章, 小暮友毅, 野本香, 田頭尚士, 江口久恵, 船田千秋, 菊内由貴, 谷水正人がん化学療法における患者支援ツールの開発 経口抗がん剤の円滑な薬薬連携を目指して 日本クリニカルパス学会誌 11 (2) 127-135 2009

資料. 医療相談実績・詳細内容

## 平成19年度以後 医療相談実績

一日平均 ■ (右) 19年度21件/日 ■ (中央) 20年度38件/日 ■ (左) 21年度34件/日

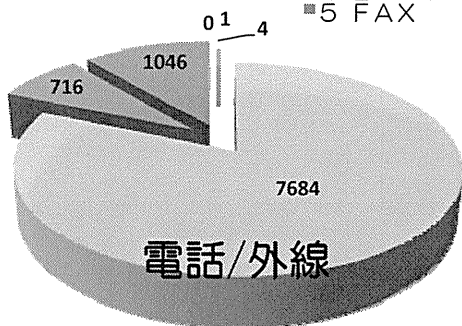
月平均 ■ (右) 19年度44件/日 ■ (中央) 20年度87件/日 ■ (左) 21年度45件/日



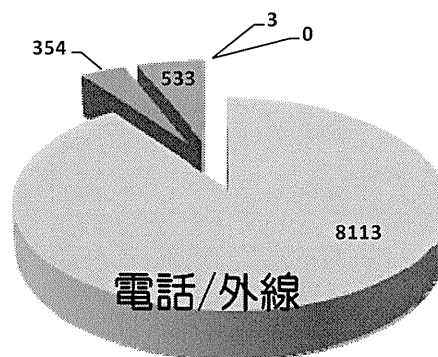
## 医療相談 詳細内容

対応方法

- 1 電話 外線
- 2 電話 直通
- 3 面談
- 4 Eメール
- 5 FAX

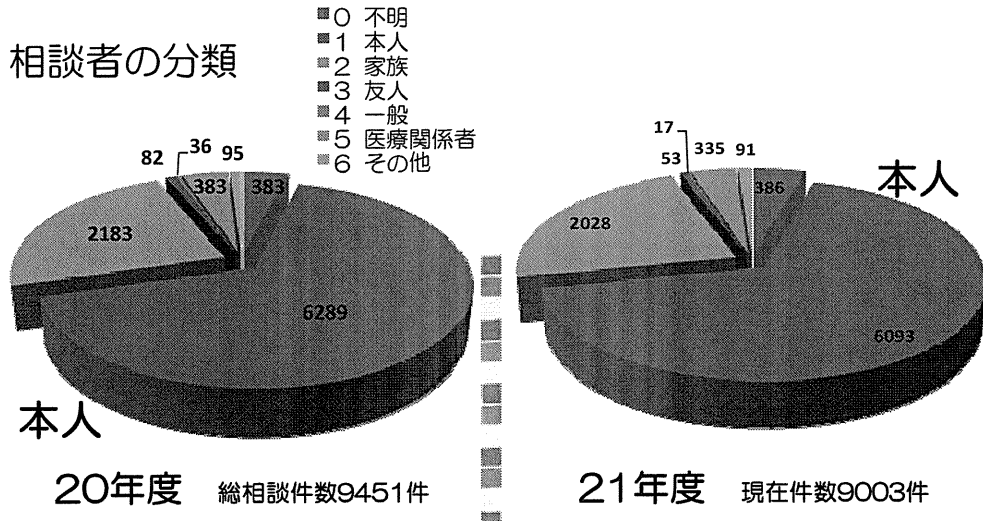


20年度 総相談件数9451件



21年度 現在件数9003件

## 医療相談 詳細内容



## 医療相談 詳細内容

